

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-63	中学校	理科	理科	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	理科 705	未来へひろがるサイエンス 1		

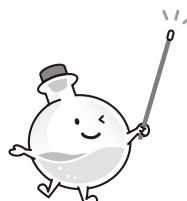
1 編修の基本方針

未来へひろがる教科書

— 未来を切りひらく資質・能力を育てるために —

グローバル化が進み、人工知能をはじめとした技術革新などにより、急速に変化する時代に、未来の社会の姿としてSociety 5.0が提唱されました。その実現に向けて、さまざまな知識や情報を統合して、新たな価値を生み出していく力が求められています。また、予期せぬ自然災害や社会での課題に直面したとき、自ら考え判断し、他者とも協働して行動する必要があります。

このような状況のもと、未来を担う子どもたちの学びのために、次のような編修方針を立てました。



1 学ぶ意欲が高まり、探究しようとする態度を育てる教科書

- (1) 探究的な活動場면을重視し、主体的な取り組みを支援
- (2) 単元の学習後、さらに探究的な課題に取り組み、より質の高い学びへ
- (3) A B判を生かしたダイナミックな紙面により、科学の世界に引き込む

2 基本事項が定着し、さらなる学力の向上へ導く教科書

- (1) 確かな基礎・基本の習得から、活用する力の育成まで
- (2) 既習事項との関連を意識し、学習内容の系統性を重視
- (3) 観察・実験の技能の確実な習得と安全配慮

3 科学的な思考力・表現力を育て、高めていく教科書

- (1) 観察・実験を中心にした学習展開により、科学的思考力を育成
- (2) 理科の見方・考え方を重視し、主体的・対話的な場면을充実
- (3) 思考・表現を促し、アシストする場面を設定

4 科学を学ぶ有用性を感じ、学び続ける姿勢を育てる教科書

- (1) 実社会・実生活との関連から、学習の有用性・科学の魅力を伝える
- (2) 環境保全や自然との共生を自ら考える姿勢を育成
- (3) 学習後に、学びの深まりや、できるようになったことを実感

1 学ぶ意欲が高まり、探究しようとする態度を育てる教科書

(1) 探究的な活動場面を重視し、主体的な取り組みを支援

- 学習指導要領解説の「理科改訂の要点」に示された探究の過程に主体的に取り組む活動として、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート(巻末の切り取りシート)」により、生徒の活動をサポートします。
1年では「問題を見いだす」過程として、特に「疑問」「課題」「仮説」に重点を置いています。
- 巻頭に「探究の過程」を「課題の把握」→「課題の追究」→「課題の解決」のサイクルで示し、主体的に課題を解決していくイメージを持たせるようにしています。
- サイエンス資料「探究もフェアプレイで」では、探究する過程での心構えについて、記録の仕方のポイントや実際に得られたデータの大切さなどをわかりやすく示しています。



探Q実験 p.143

(2) 単元の学習後、さらに探究的な課題に取り組み、より質の高い学びへ

- 単元を学習した後に、身のまわりの疑問に対して、習得した知識・技能を統合して、探究の過程に沿って解決していく活動場面として「みんなで探Qクラブ」を設定しています。



みんなで探Qクラブ p.60-61

(3) A B判を生かしたダイナミックな紙面により、科学の世界に引き込む

- 左右に広いAB判を採用し、丁寧な本文記述とダイナミックな図や写真の両立を図っています。概念の理解に重要な図や写真を紙面上部に集めることによって視覚的に対象物を認知させ、科学の魅力に引き込み、学習意欲を高めます。
- 単元導入の「科学にアクセス」では、QRコードからデジタル教材(映像、音声、画像)にリンクし、学習へのいざないをサポートします。



科学にアクセス

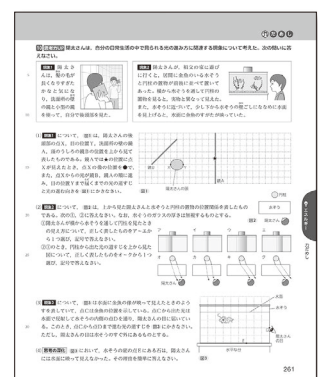


左右に広いAB判紙面 p.16-17

2 基本事項が定着し、さらなる学力の向上へ導く教科書

(1) 確かな基礎・基本の習得から、活用する力の育成まで

- 本文中: つまづきやすい計算場面などは「例題」を置いて考え方を丁寧に解説しています。また、生徒が勘違いしやすい基本事項は、「なるほど」のコーナーで正しく理解できるように、情報提供しています。
- 章末: 「基本のチェック」では基本事項を確認し、理科用語で説明したり、図から読み取ったりする問題を設けています。
- 単元末: 「学習のまとめ」では、視覚的に学習内容が定着できるようにしています。「力だめし」では、観点別評価に対応した問題を扱い、「思考力UP問題」では、実験の計画や分析・解釈、日常生活の場面などを取り入れ、全国学力・学習状況調査に対応しています。
- 学年末: 単元や領域を総合的にとらえた「学年末総合問題」を設け、1年間の学習をふり返り、次学年につながるようにしています。



思考力UP問題 p.261

(2) 既習事項との関連を意識し、学習内容の系統性を重視

- 章導入に「**つながる学び**」、また本文中に「**思い出してみよう**」を設け、小学校理科の内容や既習事項を確認した上で、新たな学習に入るようにしています。
- 高校理科につながる発展的な学習内容には、「**高校化学へ**」などとマーク表示し、将来の学習への期待感を持たせるようにしています。
- 算数・数学の既習事項や関連する内容は、巻末に「**理科でよく使う算数・数学**」、本文中に「**算数・数学と関連**」のコーナーを設け、計算などの理解を促すようにしています。また、「**社会科や英語との関連**」に気付かせる箇所も設けています。

【算数・数学と関連】

・ 割る数と割られる数の小数点を、同じ桁数だけ右に移し、割る数を整数に直して計算する。
 ・ 商の小数点は、割られる数の移した小数点にそろえて打つ。

$$\frac{95.23 \text{ g}}{12.1 \text{ cm}^3} = 95.23 \text{ g} \div 12.1 \text{ cm}^3$$

$$12.1 \overline{) 95.23} \rightarrow 12.1 \overline{) 952.3}$$

10倍 10倍

割る数を10倍する。
割られる数も同様に10倍する。

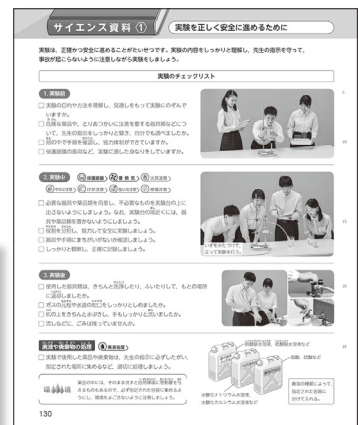
算数・数学と関連 p.150

(3) 観察・実験の技能の確実な習得と安全配慮

- 基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方は、「**実験のスキル**」を設け、丁寧に解説しています。
- サイエンス資料「**実験を正しく安全に進めるために**」では、実験時の行動を自己確認する「**実験のチェックリスト**」、実験中に地震が発生した場合、ガラス器具や薬品の扱い、気をつけたい実験操作など、中学校理科全般にわたって必要となる注意点やスキルを丁寧に紹介しています。
- 実験で特に注意すべき点は、「**注意マーク**」と丁寧な注意書き（朱赤文字）で示しています。また、保護眼鏡や火気注意など、安全に配慮すべき点は8つの「**安全マーク**」を表示しています。



実験中に地震が発生した場合 p.131



実験を正しく安全に進めるために p.130

3 科学的な思考力・表現力を育て、高めていく教科書

(1) 観察・実験を中心にした学習展開により、科学的思考力を育成

- 各章は学習課題を軸とした課題解決の流れを繰り返し、探究的な学習によって、科学的な思考力が身に付くようにしています。
- 生徒観察・実験においては、「**結果**」と「**考察(結果からわかること)**」を区別して表記しています。また、最後に「**探究の振り返り**」で探究の過程を振り返って、妥当性を検証し、新たな課題につなぐようにしています。

(2) 理科の見方・考え方を重視し、主体的・対話的な場면을充実

- 主体的・対話的な学びの場面として、「**話し合ってみよう**」「**考えてみよう**」「**表現してみよう**」を設けました。「**計画**」「**予想**」「**分類**」「**比較**」「**作図**」などのマークを添え、理科の見方・考え方をはたらかせるようにしています。



主体的・対話的な場面の例



p.12



p.167

p.245

- 科学的な表現活動の例として、観察・実験の後に「**わたしのレポート**」を掲載し、自分でレポートにまとめる際のポイントがつかめるようにしています。
- 生活の中の何げない疑問を、学習内容を活用して対話を通して解決する場面として、「**みんなで解決**」を設けています。

みんなで解決

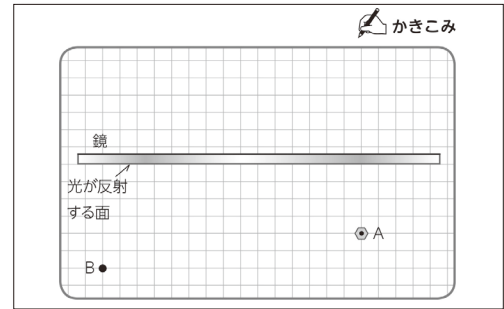
身近な野菜や果物には、どこに花のつくりの名残があるだろうか？みんなで考えてみよう。

エンドウ

みんなで解決 p.23

(3) 思考・表現を促し、アシストする場面を設定

- 本文中の「かきこみ」と表示した箇所では、観察・実験などに関するグラフの作成や作図、モデル図の描画により、理科での表現力や読解力を育成できるようにしています。
- サイエンス資料「理科における話し合いと発表」では、たがいの考えを深めるために、相手に話す、相手の考えを聞くなどの対話的な学びにつなぐポイントをまとめています。



かきこみ(作図の例) p.211

4 科学を学ぶ有用性を感じ、学び続ける姿勢を育てる教科書

(1) 実社会・実生活との関連から、学習の有用性・科学の魅力を伝える

- 節の学習から身近な課題に思考をつなぐように「活用してみよう」を設けています。
 - 学習と関連する話題を科学コラムで紹介しています。
- 「部活ラボ」: 中学校の部活動と関連する話題
「お仕事ラボ」: 職業と関連させ、キャリア教育につなぐ話題
「お料理ラボ」: 調理や農業などの食生活と関連する話題
「深めるラボ」: 科学史、生活の知恵などの、学習を深める話題
- 単元末の「ひろがる世界」では、学習内容を応用した身近な話題や将来期待される科学技術などを取り上げ、より学習が広がり、深まるようにしています。



上: お料理ラボ p.248 下: ひろがる世界 p.62-63

(2) 環境保全や自然との共生を自ら考える姿勢を育成

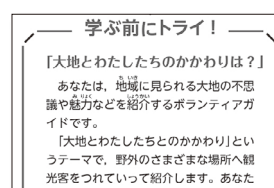
- 上記科学コラムの「防災減災ラボ」では、自然への畏敬の念と防災・減災に対して当事者意識が持てるようにしています。
- 「地球」単元では、地震、火山、地層など、**大地の恵みと災害**について自ら考える場面を設け、また、多面的、総合的にとらえるよう、各地の具体例を紹介しています。
- 47都道府県それぞれの自然環境に関する切手を「地域・環境資料集 サイエンス・スタンプ47」で紹介し、自然の多様性と共通性を実感できるようにしています。



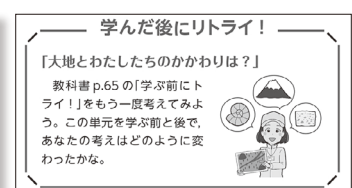
大地の恵みと災害 p.116-117

(3) 学習後に、学びの深まりや、できるようになったことを実感

- 単元導入での「学ぶ前にトライ!」と同じ問いかけを、単元末に「学んだ後にリトライ!」として設け、学習をふり返り、自己評価することにより、習得したことを確認し、学びの深まりを実感できるようにしています。



学ぶ前にトライ! p.65



学んだ後にリトライ! p.121

2 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<p>▶実生活における活用や論理的な思考力の基盤となる基本的な知識・技能の確実な定着を心がけています。</p> <p>▶探Q実験などで自然事象や身のまわりの事象への疑問に対して、探究的に課題解決することを通して、真理を究める態度を育成するようにしています。</p> <p>▶サイエンス資料「探究もフェアプレイ」では、探究での心構えについて、実験で得られたデータの大切さなどを示し、研究倫理にも触れるようにしています。</p>	<p>●知識と教養全体</p> <p>●探Q実験、探Qシート p.13-15, 91-93, 143-145, 242-245, 巻末</p> <p>●探究もフェアプレイで p.268</p>
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<p>▶発展的な学習内容を数多く紹介し、個に応じた学習に対応しています。</p> <p>▶科学コラムで生活に関連した話題を紹介しています。「部活ラボ」は学校生活に、「お料理ラボ」は食生活に直結しています。</p> <p>▶「お仕事ラボ」で、職業と理科の学習との関連を紹介し、キャリア教育につながるようにしています。</p>	<p>●発展的な学習内容 p.33, 109, 179, 219など</p> <p>●部活ラボ p.53, 188, 237</p> <p>●お料理ラボ p.74, 170, 248など</p> <p>●お仕事ラボ p.63, 129, 176, 219など</p>
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<p>▶安全上の留意点に配慮し、個々が責任を持って観察・実験を進められるよう手順を丁寧に示し、注意・安全マークによっても注意喚起しています。</p> <p>▶男女の役割を固定せず、生徒一人ひとりが互いに協力しながら、観察・実験、考察や話し合い等を進めていけるよう配慮しています。</p> <p>▶視認性と可読性の高いUDフォントを採用し、色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインを用いています。</p>	<p>●実験を正しく安全に進めるために p.130-137</p> <p>●理科における話し合いと発表 p.279</p> <p>●文字のフォント、配色・デザイン全体</p>
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<p>▶多くの動植物や自然環境を紹介し、自然の共通性・多様性と豊かさに目を向けるようにしています。</p> <p>▶1年では、環境への意識の芽生えを大切にし、環境への意識を高めるよう「環境マーク」を表示しています。</p> <p>▶「防災減災ラボ」では、自然への畏敬の念と防災・減災への意識を高めるようにしています。</p>	<p>●自然の共通性・多様性 p.①-④, 4-11, 18-53など</p> <p>●環境への意識 p.23, 53, 74, 116, 130など</p> <p>●防災減災ラボ p.85, 119, 164, 246</p>
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<p>▶「深めるラボ」で、科学史に関する話題や自然科学・科学技術の発展に大きく貢献した科学者や技術者を紹介しています。また、昔の人が見つけた知恵や現在まで受け継がれているさまざまな工夫なども紹介しています。</p> <p>▶「地域・環境資料集 サイエンス・スタンプ47」では、全国の自然環境に関する切手を紹介し、郷土と我が国を愛する心を育むようにしています。</p>	<p>●深めるラボ p.33, 95, 182, 212など</p> <p>●地域・環境資料集 サイエンス・スタンプ47 p.271-277</p>

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

▶▶▶ プログラミング教育への対応

小学校でのプログラミング学習を活用して発展させるために、脊椎動物を観点と基準で分類する例 (p.46) や、植物や気体を条件分岐で同定する問い (p.57, 197) を設け、プログラミング的思考を育成します。

▶▶▶ 学習者用デジタル教科書の発行

紙の教科書と同一内容で文字サイズや背景色等を変更でき、弱視の生徒にも読みやすくなります。また、すべての文字にふり仮名を付す機能も搭載し、外国から来た生徒や漢字が苦手な生徒への支援も行います。文章の読み上げも可能です。

▶▶▶ 指導書の充実

教科書をより効果的に活用いただくよう冊子（紙面解説、観察・実験の安全対策ほか）とデータを用意いたします。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-63	中学校	理科	理科	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
61 啓林館	理科 705	未来へひろがるサイエンス 1		

1 編修上特に意を用いた点や特色

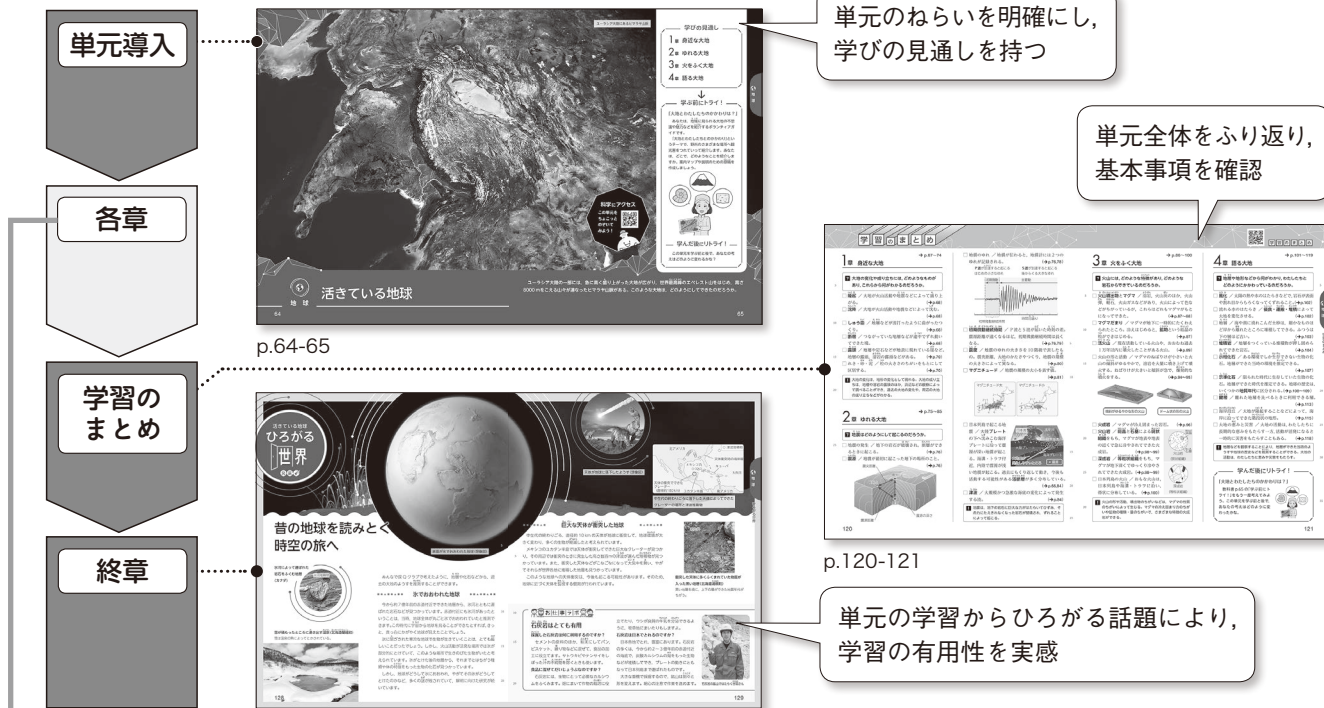
1年 各単元の特色 —編修上留意した点—

2 分 野	<p>▶序章 自然の中にあふれる生命</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身のまわりの自然をさまざまな視点で観察し、新たな発見や疑問を見いだすようにしました。 ●新たに生物のなかま分けの実習を設定しました。「観察の進め方」や「観察のスキル」などにより、観察の基礎・基本を定着できます。 		p.40-41
	<p>▶生命 いろいろな生物とその共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物の花や葉、根のつくり、動物の体のつくりを学習することで、基本的な分類の観点と基準を身につけられるようにしています。 ●序章で学んだ分類、観察の技能を活用する展開とし、また、植物や動物の写真をダイナミックに盛り込むことにより、興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組めるようにしています。 		
1 分 野	<p>▶地球 活きている地球</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はじめに小学校での知識をもとに、身近な大地の変化をとらえ、観察を通して、学習への意欲を喚起しました。 ●地球内部のエネルギーに起因する直接的な現象として地震・火山を取り上げ、過去の事象・現象の推測、比較・分析を行い、地層の内容へと展開しました。 ●災害に関係するところでは、そのメカニズムを学習した上で、被害の大小などを科学的にとらえ、関連付けできるように展開しました。 		p.104-105
	<p>▶物質 身のまわりの物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身のまわりの物質をさまざまな方法で調べ、物質には固有の性質があること、いろいろな観点で物質を分類できることを見いだすようにしました。 ●気体の学習では、身のまわりのものから発生した気体を、自分たちで考えた方法で同定する実験を設定しました。 ●水溶液や物質の状態変化では、粒子のモデルを使って、物質についての事象を質的・実体的な視点でとらえられるよう心がけました。また、単元を通して、加熱を伴う実験では、特に安全面に配慮しました。 		p.166-167
1 分 野	<p>▶エネルギー 光・音・力による現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ●光の反射や屈折の規則性、凸レンズのはたらきなどを実験を通して学び、光の道筋をかく作業を行って理解が深まるようにしました。 ●音の学習では、身近なものを使って楽器をつくる体験から音の高・低、大小が生じるしくみを予想させ、実験で解明します。 ●力の学習では、力の大きさの測定を、ばねを使って探究できるように工夫し、力の表し方の理解につなげ、物体にはたらく力のつり合いを学ぶ展開にしました。 		p.206-207

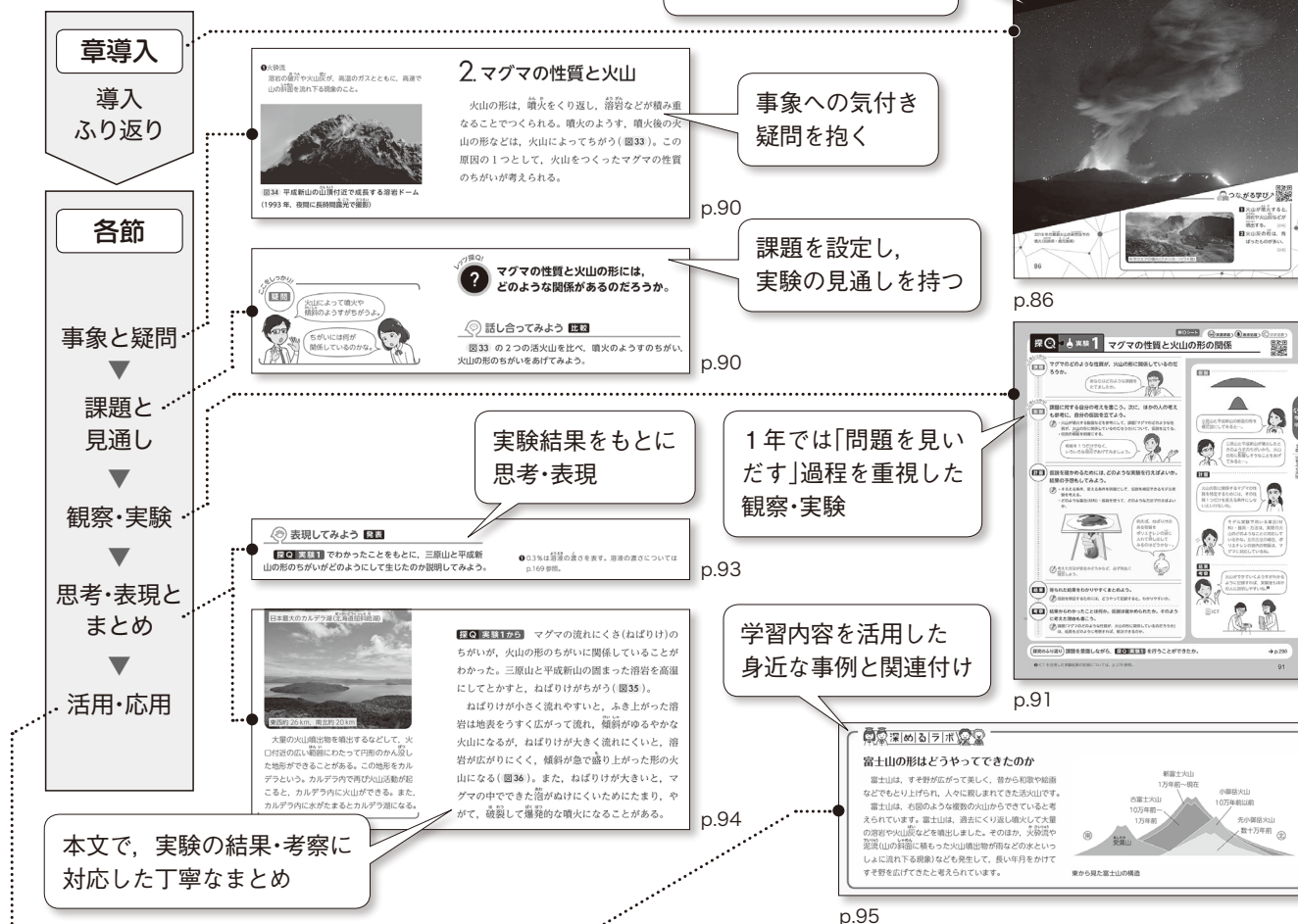
1年 紙面の特徴 生徒にも先生にも、授業の流れがイメージできる紙面構成

■ 単元内の構成と探究の過程

「地球」単元の例



■ 章内の構成と探究の過程



◆観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法 および 学習指導要領の 遵守	▶教育基本法に示された教育の目標を踏まえた編集方針としています。	全体
	▶中学校理科の学習指導要領に沿った配列、内容・構成にしています。	
主体的・ 対話的で 深い学び	▶探究的な学習に主体的に取り組む活動として、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の活動をサポートします。	p.13-15, 91-93, 143-145, 242-245, 巻末
	▶左右に広いAB判により、丁寧な本文記述とダイナミックな図や写真の両立をはかり、学習意欲を高めます。	全体
	▶自ら考える場、また対話的な学びの場として、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「表現してみよう」を設けています。	p.42, 74, 79, 81, 188, 229など
	▶生活の中の何げない疑問を、対話を通して解決する場面として、「みんなで解決」を設けています。	p.39, 82, 187, 225など
学びの見通し・ ふり返り	▶単元導入には、課題意識を持って単元の学習に入ることができるように、「学びの見通し」→「学ぶ前にトライ!」を設けています。また、同じ問いかけを、単元末に「学んだ後にリトライ!」として設け、学習をふり返り、自己評価により、学びの深まりを実感できます。	p.17とp.55, p.65とp.121, p.139とp.195, p.205とp.257
基礎・基本の 定着 学力向上	▶本文中のつまずきやすい計算場面などは「例題」を置いて丁寧に解説し、同じ考え方で解ける「練習」に取り組むようにしています。	p.78, 150, 170, 226, 246
	▶生徒が勘違いしやすい基本事項は、「なるほど」のコーナーで正しく理解できるよう、情報を示しています。	p.23, 28, 38, 94, 222
	▶章末には、基本事項を確認する「基本のチェック」を設けています。	p.33, 153など
	▶単元末には、「学習のまとめ」で学習内容を確認し、「力だめし」で単元の学習の定着度をはかることができます。また、学年末には、単元や領域を総合的にとらえた「学年末総合問題」を設けています。	p.54-55, 56-59など p.266-267
	▶章導入の「つながる学び」や単元末の「学習のまとめ」には、QRコードからリンクしたコンテンツで、既習事項や学習内容を確認することができます。	p.18, 55など
思考力・判断力・ 表現力の育成	▶各章は学習課題を軸とした課題解決の流れを繰り返し、探究的な学習によって、科学的な思考力が身に付くようにしています。	全体
	▶「話し合ってみよう」「考えてみよう」「表現してみよう」の場面では、「計画」「予想」「分類」「比較」などのマークを添え、理科の見方・考え方ははたらかせて取り組むようにしています。	p.12, 15, 46, 90, 167, 245など
	▶科学的な表現活動の例として、観察・実験の後に「わたしのレポート」を掲載し、自分でレポートにまとめる際のポイントがつかめるようにしています。	p.11, 36-37, 112, 152, 210
	▶本文中の「かきこみ」と表示した箇所では、グラフの作成や作図、モデル図の描画により、理科での表現力や読解力が身に付きます。	p.31, 111, 167, 188, 226, 251
資質・能力の 育成 Society 5.0で 求められる 実社会での 課題解決能力に 向けて	▶単元末の「力だめし」では、資質・能力の3観点に対応する問題を扱い、「思考力UP問題」では、実験の計画や分析解釈、日常生活の場面などを取り入れ、全国学力・学習状況調査に対応しています。	p.59, 125, 199, 261
	▶単元を学習した後に、身のまわりの疑問に対して、習得した知識・技能を統合して、探究の過程に沿って解決していく活動場面として「みんなで探Qクラブ」を設定しています。	p.60-61, 126-127, 200-201, 262-263
	▶サイエンス資料「探究もフェアプレイ」では、探究する過程での心構えについて、ノートへの記録の仕方のポイントや実際に得られたデータの大切さをわかりやすく示しています。	p.268
	▶節の学習から身近な課題に思考をつなぐように「活用してみよう」を設けています。	p.47, 119, 175, 232など
理科の見方・ 考え方	▶「生命」「地球」「物質」「エネルギー」の領域ごとの特徴的な「理科の見方」で事象をとらえ、探究の過程の中で比較したり、関係付けたりするなどの「理科の考え方」をはたらかせるようにしています。	全体

観点	留意点	該当箇所
科学を学ぶ 有用性、 キャリア教育	▶部活動と関連する「部活ラボ」、職業との関連からキャリア教育につながる「お仕事ラボ」、食生活と関連する「お料理ラボ」などにより、生活と科学を結び付けて考えられるようにしています。	p.63, 74, 170, 188, 219, 237など
	▶「深めるラボ」では、科学史に関する話題や、昔の人が見つけた知恵や現在まで受け継がれている様々な工夫なども紹介しています。	p.33, 95, 182, 212など
	▶単元末の「ひろがる世界」では、学習内容を応用した身近な話題や期待される科学技術などを取り上げ、学習が広がるようにしています。	p.62-63, 128-129, 202-203, 264-265
観察・実験の 構成	▶必ず行ってほしい「探Q実験」「生徒実験」、演示実験や代替実験として活用できる「ためしてみよう」「図示実験」で構成し、柔軟な活動計画が組み立てられるようにしています。	p.143-145, 151, 159, 160など
	▶単元末の「みんなで探Qクラブ」やサイエンス資料「自由研究テーマ例」なども観察・実験の場面として設定しています。	p.60-61, 126-127, 200-201, 262-263, 269-270
	▶基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方は、「実験のスキル」を設け、丁寧に解説しています。	p.7, 111, 149, 155, 243など
観察・実験の 安全配慮	▶サイエンス資料「実験を正しく安全に進めるために」では、中学校理科全般にわたって必要な注意点やスキルを丁寧に紹介しています。	p.130-137
	▶実験で特に注意すべき点は、「注意マーク」と丁寧な注意書き(朱赤文字)で示しています。また、保護眼鏡や火気注意など、安全に配慮すべき点は8つの「安全マーク」を表示しています。	p.7, 73, 144, 191, 234など
内容・配列・分量 カリキュラム・ マネジメント	▶生徒実験を中心に授業を組み立て、余裕を持って課題解決的な学習を行うのに適切な時数の配分としています。 (標準時数105に対して、配当時数99、予備時間6)	全体
	▶どの単元から学習しても支障のないように構成し、地域の気候特性や各学校の履修形態に合わせて、同一学年内での単元順序の入れ替えが自由に行えるようにしています。	
	▶「お仕事ラボ」「お料理ラボ」「防災減災ラボ」では、地域と連携した活動につながる話題もふくまれています。	p.74, 85, 203など
発展的な学習	▶さらに学習を深めるよう、上位学年や高校理科での学習内容、学習指導要領に示されていない内容を、「発展」マークを付して取り上げています。	p.33, 109, 168, 237など
学習の系統性 小学校理科、 高校理科との 関連	▶章導入に「つながる学び」、本文中に「思い出してみよう」を設け、小学校理科の内容や既習事項を確認した上で、新たな学習に入るようにしています。	p.34, 101, 165, 208など
	▶高校理科につながる発展的な学習内容には、「高校化学へ」などとマーク表示し、将来の学習への期待感を持たせるようにしています。	p.33, 79, 179, 219など
他教科との関連	▶密度や濃度の計算など、算数・数学の基本事項が必要な箇所には、「算数・数学と関連」のコーナーを設け、また、巻末に「理科でよく使う算数・数学」を設けています。	p.78, 150, 245など, 280-282
	▶火山岩を石器に加工する話題を、「社会科と関連」として取り上げています。	p.98
	▶P波、S波のような理科用語には、もともになる英語表記を側注で示しています。 P波: Primary Wave, S波: Secondary Wave	p.78, 221
評価	▶単元導入での「学ぶ前にトライ!」と同じ問いかけを、単元末に「学んだ後にリトライ!」として入れ、自己評価することにより、学びの深まりを実感できるようにしています。	p.65とp.121, p.205とp.257など
	▶単元末の「力だめし」は、単元の総括的評価になるとともに、解答と解説のページに観点別評価の観点を記載しており、自己評価も可能です。	p.284-286
環境、 エネルギー、 防災・減災 ESD, SDGsへ の意識	▶多くの動植物や自然環境を紹介し、自然の共通性・多様性と豊かさに目を向けるようにしています。1年では、環境への意識の芽生えを大切に、環境への意識を高めるよう「環境マーク」を表示しています。	p.23, 74, 116, 130など
	▶「地域・環境資料集 サイエンス・スタンプ47」では、全国の自然環境の切手を紹介し、郷土と我が国を愛する心を育むようにしています。	p.271-277
	▶「地球」単元では、地震、火山、地層など、大地の恵みと災害について事例を紹介して考察させ、また、防災・減災への備えの意識を持たせるようにしています。	p.114-119
	▶「防災減災ラボ」では、自然災害のしくみや影響、また、備えるための技術や取り組みなどを紹介し、当事者意識を持てるようにしています。	p.85, 119, 164, 246
特別支援教育 などへの対応	▶特別支援教育の専門家の監修のもと、すべての生徒が支障なく学習できるインクルーシブ教育に配慮しています。	全体
	▶文字のフォントは、UDフォントを採用し、視認性と可読性を高めています。	UD FONT
	▶色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインを用い、メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)による認証を申請中です。	MUD
	▶1年の文字サイズは、当社小学校理科6年と中学校理科2・3年の中間サイズとし、生徒が小学校教科書から中学校教科書にスムーズに移行できるようにしています(中1ギャップに対応)。	

観点	留意点	該当箇所
人権、福祉、国際理解、ジェンダー配慮	▶生徒の写真やイラストは、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動していることを含め、性別・人種・身体的特徴に配慮しています。	全体
プログラミング教育	▶小学校でのプログラミング学習を活用して発展させるために、脊椎動物を観点と基準で分類する例や、植物や気体を条件分岐で同定する問いを設け、プログラミング的思考を育成します。	p.46, 57, 197
ICTの活用	▶紙面中のQRコードからデジタル教材(映像、画像、音声など)にリンクし、学習を広げ、深めることができます。学習意欲を高め、家庭で主体的に学習する際にも、参考になるようにしています。 QRコードの箇所の例:巻頭、単元導入「科学にアクセス」「探Q実験」「探Qシート」「学習のまとめ」「つながる学び」などの本文中	p.16, 18, 53, 55, 80, 91, 132, 159, 175, 217など
	▶コンピュータやインターネットなどの活用に適した箇所には、「ICTマーク」をつけ、積極的な利用を促しています。	p.185, 227, 235, 278
家庭学習への対応	▶章末の「基本のチェック」、単元末の「学習のまとめ」「力だめし」、巻末の「学年末総合問題」は、家庭学習でも有効活用できます。	p.33, 54-59など, 266-267
	▶「自由研究テーマ例」では、生徒が家庭でも行えるよう配慮し、身近な素材を使うようにしています。	p.269-270
用紙・印刷・製本	▶軽量で印刷が鮮明な用紙や、AB判でも開きやすく強度も保てる「あじろ綴じ」を採用しています。また、植物油インキや再生紙を使用することでアレルギーや環境にも配慮しています。	全体

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
自然の中にあふれる生命	2分野(1)ア(ア), イ	p.2~15, 探Qシート・探Qラボ「生物のなかま分け」	9
生命 いろいろな生物とその共通点	2分野(1)ア(イ), イ	p.16~63	18
1章 植物の特徴と分類	2分野(1)ア(イ)㉔, イ	p.18~33	
2章 動物の特徴と分類	2分野(1)ア(イ)㉕, イ	p.34~53	
地球 活きている地球	2分野(2)ア, イ	p.64~129	22
1章 身近な大地	2分野(2)ア(ア) (イ), イ	p.67~74	
2章 ゆれる大地	2分野(2)ア(ウ)㉔, イ	p.75~85	
3章 火をふく大地	2分野(2)ア(ウ)㉕, イ	p.86~100, 探Qシート・探Qラボ「マグマの性質と火山の形の関係」	
4章 語る大地	2分野(2)ア(ア) (イ) (エ), イ	p.101~119	
物質 身のまわりの物質	1分野(2)ア, イ	p.138~203	26
1章 いろいろな物質とその性質	1分野(2)ア(ア)㉔, イ	p.140~153, 探Qシート「謎の物質Xの正体」・探Qラボ「実験を正しく安全に進めるために」	
2章 いろいろな気体とその性質	1分野(2)ア(ア)㉕, イ	p.154~164	
3章 水溶液の性質	1分野(2)ア(イ), イ	p.165~176	
4章 物質のすがたとその変化	1分野(2)ア(ウ), イ	p.177~193	
エネルギー 光・音・力による現象	1分野(1)ア, イ	p.204~265	24
1章 光による現象	1分野(1)ア(ア)㉔㉕, イ	p.206~227	
2章 音による現象	1分野(1)ア(ア)㉕, イ	p.228~237	
3章 力による現象	1分野(1)ア(イ), イ	p.238~255, 探Qシート・探Qラボ「力の大きさとばねののびの関係」	
学年末総合問題	1分野(1), (2)	p.266~267	下記参照
サイエンス資料	2分野(1), (2)	p.130~137, 268~283, ㉓~㉔	

●サイエンス資料は、本文の内容と関連させて適宜ご利用いただけるよう、配当時数に含めています。

●学年末総合問題は、予備時間をご利用いただくことを想定しています。

計 99

(標準時数105)

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-63	中学校	理科	理科	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	理科 705	未来へひろがるサイエンス 1		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
28,32	茎の維管束	1	理科2分野 (1) ア(イ)㊦	0.25
32	海藻は何のなかま？	2	理科2分野 (1) ア(イ)㊦	0.50
33	分類学の父 リンネ	2	理科2分野 (1) ア(イ)㊦	0.75
44	体温の変化のちがい	2	理科2分野 (1) ア(イ)㊧	0.50
79	P波とS波のちがい	2	理科2分野 (2) ア(ウ)㊧	0.50
103	不整合	2	理科2分野 (2) ア(イ)㊦	0.25
106	すがたを変える岩石	2	理科2分野 (2) ア(ア)㊦(イ)㊦	0.25
109	新生代の「チバニアン」	2	理科2分野 (2) ア(イ)㊦	0.25
128-129	昔の地球を読みとく時空の旅へ	2	理科2分野 (2) ア(イ)㊦	2.00
168	牛乳は水溶液？	2	理科1分野 (2) ア(イ)㊦	0.25
172	気体の溶解度	2	理科1分野 (2) ア(イ)㊦	0.25
179	状態変化の名称	2	理科1分野 (2) ア(ウ)㊦	0.25
183	熱と温度	2	理科1分野 (2) ア(ウ)㊦	0.25
188	こおらせたスポーツ飲料	2	理科1分野 (2) ア(ウ)㊧	0.25
202-203	古くて新しいガラスの世界	2	理科1分野 (2) ア(ウ)㊦㊧	2.00
219	虹と太陽の光	2	理科1分野 (1) ア(ア)㊦	0.75
237	管楽器のしくみ	2	理科1分野 (1) ア(ア)㊧	0.75
265	光を使って知る	2	理科1分野 (1) ア(ア)㊦	0.50
合 計				10.50

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容